

編集後記

◇ 2015年も自然災害が多かった。口永良部島の噴火、スーパー台風の襲来、7月～8月上旬の猛暑、8月下旬～9月上旬の豪雨・鬼怒川の氾濫などである。自然災害に比較的強いサツマイモ、ジャガイモの生産には、甚大な影響を及ぼさなかったことが幸いであった。

しかし、8月に北海道網走市で、ジャガイモの難防除害虫であるジャガイモシロシストセンチュウが国内で初めて確認されたという、ショッキングなニュースが走った。その実態が把握され、防除対策の方向性が明らかになった段階で、本誌でもジャガイモシロシストセンチュウに関する特集を組みたい。

◇ 2015年10月30日、サツマイモが主役の体験型農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」が、茨城県の行方市にオープンした。これに先立ち、10月27日に開村式・内覧会があつたので、本誌の巻頭言でヴィレッジの概要と見学感想を記した。今後このヴィレッジが、日本におけるサツマイモ産業振興の牽引役となっていくことを期待したい。

◇ 茨城県農業総合センター園芸研究所・農業研究所とひたちなか・東海・那珂ほししいも協議会の共催で、干しいもを主要研究課題とする現地検討会が、2015年8月5日に勝田市の「ワークプラザ勝田」で開催された。出席者は約200名で、質疑応答も活発であった。研究発表内容に興味深いものが多かったので、本誌No.126の特集で「干しいもの科学」と題して取り上げた。

現在、2016年11月の出版を目指して、『干しいも事典』の編集作業を進めている。今回の特集内容も、『干しいも事典』に盛り込む予定である。

◇ 近年、果物、いちご、トマトなどの品種では、“甘い”ことが強調され注目を浴びている。サツマイモもその例外ではない。筆者はかねがねサツマイモの品種について、“甘さを強調するだけでよいのか”という疑問を持ち続け、講演会などでも時折問題提起をしてきた。今回、柳本正勝氏から「焼きいもにおける基本味の好ましさ」のタイトルで寄稿をいただいた。これを契機に、焼きいもをはじめサツマイモの基本味に関する研究がさらに進むことを願っている。

◇ 甘藷伝来410年記念事業として、「野國總管甘藷功労賞授与式典及び甘藷フォーラム」が、2015年11月15日に沖縄県のかでな文化センターで盛大に開催された。この甘藷フォーラムの状況は、本誌No.127の特集で紹介したい。

(狩谷 昭男)

いも類振興情報 第126号

2016(平成28)年1月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社